

第3節 自動車交通量の増加

第1 自動車保有台数

最近のわが国におけるモーターリゼーションの進行は著しく、全国の自動車の登録台数は昭和46年10月現在ですでに2,000万台にのぼっている。大阪府における自動車台数の増加もめざましく、昭和46年12月末には約146万台に達した(表-8)。これを昭和32年度当時と比べると実に9倍という驚異的な伸びを示している。

表-8 大阪府における年次別自動車登録台数

(昭和46年12月末現在)

年次	自動車台数(軽含む)	軽自動車台数
昭和32年	165,841	75,874
33	189,762	86,928
34	235,071	110,732
35	309,763	155,011
36	381,603	182,831
37	446,580	208,940
38	523,856	231,742
39	611,093	250,964
40	683,307	265,411
41	770,852	282,558
42	876,330	299,577
43	1,013,171	340,923
44	1,175,308	385,252
45	1,336,539	432,312
46	1,466,897	463,231

第2 交通渋滞発生回数の推移

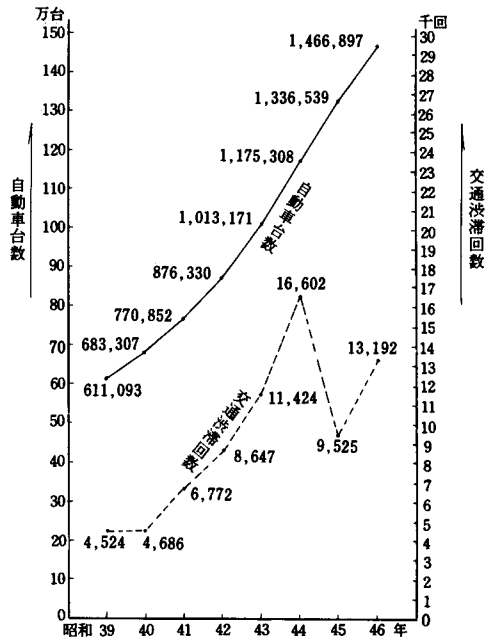
交通渋滞回数は、昭和40年から昭和44年までは大幅に増加していたが、昭和45年には万博関連道路の建設による交通容量の増大と市内幹線道路の一方通行規制等により急激に減少した。

しかし、昭和46年には交通需要の増大と大阪市周辺衛星都市における人口の増加等により再び増加し、昭和44年に次ぐ渋滞回数を記録した。昭和46年中における交通渋滞は13,192回で、前年の9,525回に比し38%の増となっている(表-9、図-4)。

表一 大阪府下における
交通渋滞発生状況

年次	回数	指数
昭和37年	2,760	100
38	3,426	124
39	4,524	164
40	4,686	170
41	6,772	245
42	8,647	313
43	11,424	414
44	16,602	602
45	9,525	345
46	13,192	478

図一 大阪府における自動車台
数と交通渋滞回数の推移



(注) 交通渋滞とは、車の列が500m以上つづき、しかも30分以上継続している状態をいう。